歴史探訪クラブ 其の206

History Inquiry Club

文化財課（博物館）☎22-1720 FAX 22-2028

田原藩藩主 三宅家のご先祖様 児島高徳

田原藩は寛文四（1664）年から231年もの長い間、三宅家が藩主として治めていました。今回はこの三宅家のご先祖様といわれる児島高徳を紹介したいと思います。

児島高徳が三宅家のご先祖様だということは『三宅氏由来並系譜』や『三宅氏御系譜』に見られます。高徳は鎌倉時代末の元弘の乱で、後醍醐天皇に応じて挙兵した南朝側の武士の一人で、後醍醐天皇に忠義を尽くした人とされています。

そう言われるゆえんになったお話は『太平記』にあります。戦で北条家に敗れた後醍醐天皇が隠岐（現在の島根県）に流される途中の岡山県あたりを通っている時のことです。高徳は後醍醐天皇を助けようと軍を率いて迎え討とうとしましたが、天皇の護送経路が予想したものと違っていました。そのため、戦が仕掛けられない状況になり、結果、軍はバラバラになってしまい、失敗に終わりました。しかし、高徳は天皇奪還を諦めず、幽閉されている屋敷に忍び込みましたが、警備が厳重で助けられませんでした。

帰り際に、高徳は近くにあった桜の木に「天莫空勾践　時非無范蠡（天、勾践を空しゅうすること莫れ。時に范蠡無きにしも非ず）」という十文字の漢詩を彫りました。これは中国の話に由来するもので、「今は難しくても必ずまた助けに来ます」という意味を持つものでした。この話を知っていた天皇は隠された意味が分かり、微笑みましたが、天皇を捕らえている武士たちは意味が分からず騒ぐだけでした。

▲桜の木の前で祈る児島高徳
月岡芳年筆「雨中月」（明治22年）より
田原市博物館蔵

江戸時代になると、この高徳の話が人々の心を打ち、浮世絵などで描かれ、広く知られるようになりました。

実は、この高徳に関して田原藩の家老であった渡辺崋山も大きく関係する出来事がありました。文政十（1827）年に田原藩十代目藩主が亡くなった際、田原藩は当時大変貧乏であったため、裕福な姫路城主の息子を藩主にし、その持参金で貧困を何とかしようという動きがありました。崋山たちは忠義の人と名高い高徳の血が絶えてしまうことを惜しみ、亡くなった藩主の異母弟に当たる三宅友信を次の藩主に推しました。結果、半ば強引に姫路城主の息子である三宅康直が十一代目藩主になりましたが、交換条件として、康直の娘と友信の長男を結婚させ、その息子である康保に継がせようと取り次ぎました。その後、康保が十二代目藩主になり、高徳の血は絶やされず守られました。

現在の研究では、児島高徳は実在しなかったともいわれていますが、このように三宅家のご先祖様といわれる高徳の血を絶やさんと奔走した崋山たちがいたことを思うと、高徳という存在がいかに大きかったかを考えさせられます。

現在、博物館の近くの巴江神社に児島高徳が祭られています。この機会に高徳に会いに巴江神社にお参りに行くのはいかがでしょうか。

▲巴江神社

（学芸員　浅野まりな）